

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

至誠 中学校区	校番 73	福山市立 山南小学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月 10日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・至誠中学校区スタンダード(①早寝早起き朝ごはん②挨拶・返事③家庭学習)の定着を9カ年継続して行い、知・徳・体のバランスの取れた子どもを育成する。 ・地域に開かれた校区の教育活動をさらに充実させる。	児童生徒の現状 ・積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己有用感が低い児童・生徒もいる。 ・基礎学力の定着は見られるが、主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学び合う力 主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校の授業公開を通して協議し、「子ども主体の学びづくり」の充実を目指す。 ○至誠中学校区スタンダードの定着：各発達段階毎に目指す姿を設定し検証し改善を図る。 ○小・中学生との交流：小中学校合同行事(合唱コンクール・挨拶運動・絵本の読み聞かせ等)の開催
		中学校区として統一した取組等	

III 自校

ミッション ○主体的に問いを立て、他者と協働しながら解決する児童を育てる。 ○友だちやふるさとを大切に、関わり合いながら、自己有用感を高める児童を育てる。 ○心身の健康に関心をもち、明るく元気な児童を育てる。
--

学校教育目標 志をもち、社会で活躍できる児童の育成

現状 <子ども主体の学び> □単元末テスト正答率：低95%中85%高78%→概ね達成 □標準学力テスト評定1の児童：25%→課題 ◎協働的な学びが、主体性の向上や学習内容の定着につながり始めている。 <自己有用感> □自己有用感に係る児童アンケートの肯定的評価：95% ◎人のためになる行動を「山南の花」とし、児童会活動による呼びかけ等により児童の意識が定着した。 <心身の健康> □生活振り返り週間において早寝する児童の達成率：78% ◎早寝の課題は依然としてあるが、基本的な生活習慣は定着してきている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「主体的に問いを立てて、他者と協働しながら解決していく力」 1 自分から進んで取り組む力(主体性) 2 友達と協力する力(協働性) 3 自分らしく表現する力(創造性) 4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)			
めざす子ども像	主体性	①目標 自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習できる。	②積極性 グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出せる。	③実行 グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表できる。
	協働性	④対話 自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明し合える。	⑤協力 グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組める。	⑥練り上げ 友達の良いところやアドバイスを生かし合って、より良い考えや作品を作れる。
	創造性	⑦発想 新しいアイデアや工夫はないかと、いつも自分で考えられる。	⑧個性 じぶんらしい考えを生かして文章を書いたり発表したりできる。	⑨質問 「なぜだろう?」「どうしてかな?」といった質問を考えられる。
	社会貢献力	⑩思いやり 相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。	⑪公共心 公共の利益のことを考えようとする。	⑫自己有用感 人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じている。

研究	教科等	国語科・音楽科
	主題・内容等	子ども主体の学びを育てる授業づくり ～主体・協働・創造・社会貢献をキーワードにして～
めざす授業の姿	○自ら問いを立てる場がある。 ○協働し解決する場がある。 ○自分らしく表現する場がある。 ○みんなのことを考えみんなのために働く場がある。	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 山南小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
						□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	○主体的に学 び、確かな学力 を身につけた 児童を育成す る。	★ 継続	○他者と 協働して 解決する 児童を育 成する。	○学び合い深 めあう発問を 工夫する、他者 と協働して解 決する授業づ くりを進める。	△国語、算数、理科にお いて単元末テストの正答 率を各教科、低 90%中 85%高 80%以上にす る。 △標準学力テストにおい て評定1の児童を20% 以下にする。									
3	○友だちやふ るさとを大切 とともに、関わ りながら成長 し、自己有用感 を高める児童 を育成する。	継続	○自己有 用感の高 い児童を 育成する。	○人のため になる行動を認 め、奨励する。 ○児童会活動 を推進する。	○自己有用感に係る児童 アンケートを実施、肯定 的評価を95%以上にす る。									
2	○心身の健康 に関心もち、 明るく元気な 児童を育成す る。	継続	○運動に 親しみ、体 力を身に つけた児 童を育成 する。	○体育の授業 改善を図る。	○新体力テストにおい て、DEの児童を10% 以下にする。									
3	○保護者・地域 に信頼される 学校を創る。	継続	○学校運営 に組織的に 取組み、子 どもと向き 合う時間を 確保する。	○長期的な見 通しをもつて 事前準備をす る。 ○連携による マネジメント 力の向上を図 る。	○学校アンケートの肯定 的評価を90%以上にす る。 ○職員アンケートの肯定 的評価を100%に近づ ける。									